

# ヤリイカ

## 生態的特徴等

【生態】茨城県沿岸域に分布するヤリイカは、常磐海域を中心に三陸から房総海域に分布する系群で、春～夏に生まれ1年かけて成長し、翌春に産卵して一生を終える。本県沖の主な生息水深は50～250mで、その時々成長段階に適した水温帯の海域を求めて、南北・深浅回遊すると考えられている。本県沖は4～6月の産卵期に浅海部に集まり好漁場が形成される。大きさは外套長（胴の部分の長さ）で12月に15cm、3月に20cmとなり、産卵盛期5月には雄は大型になり30cm以上に成長する（図1）。餌は主にカイアシ類、アミ類で、大型個体は小魚を食べる。

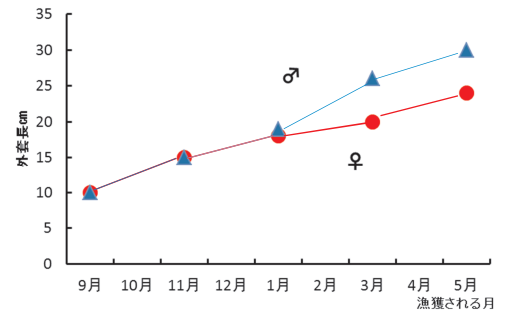


図1 ヤリイカの成長

【漁法と盛漁期】主に底曳網で漁獲され、平潟、大津、久慈、那珂湊漁港で水揚げが多い。盛漁期は12月～翌年5月。

【利用】イカ類では、夏のスルメイカに対し冬のヤリイカとして利用され、小ぶりなものは煮物など、大きなものは刺身で食される。

## H23年以降の豊漁から、資源量中位へ戻る

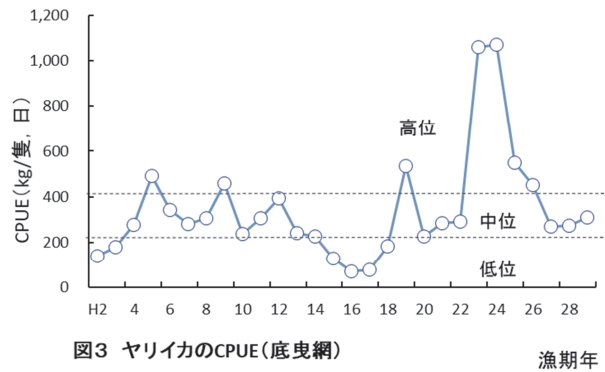
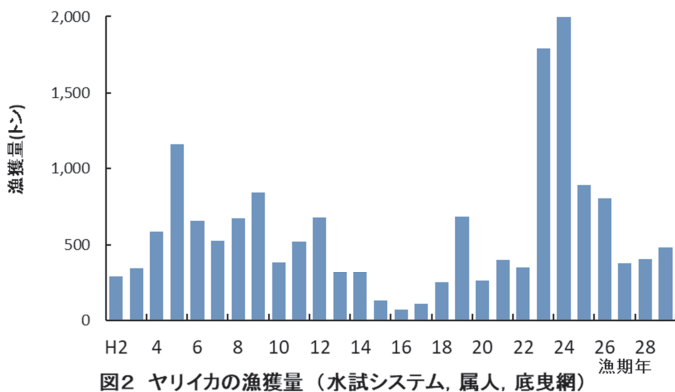
（漁獲量）漁獲量は、生態的特徴（春に産まれたものを冬から翌年の春にかけて漁獲する）から、暦年（1～12月）ではなく底曳網の漁期（9月～翌年6月）で集計した。H23～26年の4年間は800ト超の豊漁となった。特にH24年は2,000トと記録的豊漁となった。H29年は482トであった（図2）。

（水準と動向）水準は、過去の底曳網のCPUE（kg/隻・日）（図3）から「中位」、動向は、直近5漁期のCPUEの傾向から「減少」とした。

水準



動向



## 【全国の漁獲動向】

全国的に分布する魚種だが近年は日本南西部よりも北東部の漁獲量が増えている。茨城県以外では、千葉県（銚子）、宮城県（石巻）などでも水揚げされる。

評価期間：平成29年9月～平成30年6月 更新日：平成30年11月1日